

1. インターバンク市場

先週のインターバンク市場は、150兆円前後の当座預金残高を背景に、無担保コールO/N加重平均レートは先々週と同水準の0.065%前後での推移となった。週を通じて、ビッドは概ね地銀・信託業態から0.06%前半、大手行から0.06%付近を中心に推移する展開であったが、週末となる1日は大手行から0.065%ビッドが入るなど、やや強含みとなっていた。ターム物は大手行から1W~1Mでの調達が見られた。固定金利方式による共通担保資金供給オペは30日と31日にそれぞれ3M・15,000億円と3M・8,000億円がオファーされた。結果としては両方とも札割れになったものの、30日のオファー分は10,430億円の期落ち分に対して12,480億円の落札となるなど、増額でのロールとなった。

今週のインターバンク市場は、4日に税・保険料揚げ、7日に10Yの発行が予定されており、需給上の資金不足日となるものの、高水準の当座預金残高を背景に特段の波乱は無いものと思われる。経済イベントとしては、各国で金融政策決定会合が予定されており、6~7日にMPC(英中銀金融政策委員会)、7日にECB定例理事会、7~8日に日銀金融政策決定会合が開催される。

2. オープン市場

先週の短国市場は、入札や買入オペといったイベント以外では、相場が動く契機が見当たらず、総じて堅調な相場展開となった。週を通して3Mが0.03%近辺の出合い。6M~1Yはほとんど出合が無く、0.015%程度の気配が見られた程度であった。短国の入札は、31日に3M物が実施され、按分レート0.0337%、平均レート0.0289%、按分比率15.0161%という結果となり、WI取引で0.0255%まで買い進まれたにしては、若干流れ気味の印象であった。最近の傾向として、短国のレートが極端に低くなっているなか、レート度外視で確実な在庫確保に動く参加者と、あまりに低水準なため入札に消極的な参加者との間で温度差があり、1回あたりの発行量が多い3M物の入札は特に流れ易い傾向が続いている。短国買入オペは1日に3兆円通知され、按分利回較差0.00%、平均利回較差+0.002%、按分比率53.4%という結果になった。引値を勘案すると、実際の落札利回りは3Mゾーンで0.03%近辺、1Yで0.016~0.018%程度と推測される。

先週のCP市場は、月末週にあたったため、週間で1兆3,000億円程度の償還に対して、発行は1兆8,000億円程度と上回った。発行残高が漸増傾向にある中、現先レートも高止まりとなっており、特にショートターム物ではディーラーの応札姿勢も消極的であった。発行レートはa-1格銘柄で0.095~0.105%程度、a-1+格で0.085~0.095%程度となっており、やや上昇基調との印象を受けた。

今週の短国市場は、6日に6M物、7日に3M物の入札が予定されている。短国買入オペが多額で通知されていることから、総じて見れば、需給的には好調な状態が続くと考えられる。CP市場は、夏季休暇を前に、発行が増加する可能性もあるため、動向が注目される。また、5日のCP等買入オペは、オファー額が前回の4,000億円から4,500億円への増額通知となることが予定されている。

3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で4,300億円程度の還収超見通し。財政資金は、4日の税・保険料揚げを中心に6兆9,200億円程度の揚げ超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で6兆4,900億円程度の資金不足を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。＜4日＞TB2M;償還25,000億円/TB3M;償還41,000億円・発行57,000億円 ＜7日＞10Y発行;24,000億円/交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円/流動性供給;発行3,000億円

2014年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
8/4(月)	1,300	△ 42,200	△ 40,900	全店共通(固)	△ 4,900	2,900	△ 2,000	△ 42,900
8/5(火)	2,000	1,000	3,000	国債買入 短国買入		5,100 30,000	35,100	38,100
8/6(水)	1,000	1,000	2,000				0	2,000
8/7(木)	0	△ 24,000	△ 24,000				0	△ 24,000
8/8(金)	0	△ 5,000	△ 5,000				0	△ 5,000
週間合計	4,300	△ 69,200	△ 64,900		△ 4,900	38,000	33,100	△ 31,800

(注) 上表の8/4は日銀予想、8/5以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
8/4(月)	8月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 7月のマネタリーベース(日銀 8:50)		
8/5(火)		10Y 24,000億円 8/7発行	6月の米製造業新規受注・出荷・在庫 7月のISM 非製造業景況指数
8/6(水)	6月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M発行 35,000億円 8/11発行	MPC(英中銀金融政策委員会,1日目) 6月の米貿易収支
8/7(木)	7月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB3M発行 57,000億円 8/11発行	流動性供給 3,000億円 8/11発行
8/8(金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 6月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 6月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 7月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00) 日銀総裁定例会見(15:30)		MPC(英中銀金融政策委員会,2日目) ECB定例理事会(金融政策発表あり) 6月の米消費者信用残高 6月の米卸売売上高

8/7エネルギー対策借入 4,000億円 8/19借入

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認戴きますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。

金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関 関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入